

【校長先生の話】

みなさん、おはようございます。夏休みは有意義に過ごせましたか。

今年の夏は本当に暑かったですね。そんな中でも、補習や検定、部活動や学校祭準備に一生懸命取り組む姿がたくさん見られました。二学期は学校祭、修学旅行、等々大きな行事が続きます。力を抜かず、やり切ってください。努力と達成感は、必ず成長につながります。

さて、高校生の様々な夏の大会(近畿大会や全国大会など)では、高校生たちが全力を尽くす姿がありました。その中で、今日、みなさんに伝えたいことは三つです。

一つ目、「力の出しどころ」

常に100%出すことも大切ですが、勝負の場で出し切れなければ意味がありません。

その一瞬のために練習を重ねる。ここぞというときに力を発揮できるか——それが勝敗を分けます。

どうすればできるのか。

→ 日々の積み重ねを怠らないこと。

→ 焦らずチャンスを待つこと。

→ 自分と仲間を信じること。

この三つが、勝負どころで力を引き出す手段です。

二つ目、「我慢」

スポーツの世界では、流れを耐える守備や、相手の隙を待つ粘り強さが勝敗を左右します。

生活も同じです。思うようにいかないとき、踏ん張る「我慢」が次の力につながります。

三つ目、「点と点を結ぶ」

ある高校生は、試合のたびに力をつけ…「練習がつながっている実感があった」と話しました。

また、ある高校の野球部の監督も「今までの個人個人の努力が甲子園で結びついている」と語りました。

日々の練習や努力、成功や喜び、失敗や悩みもすべては「点」。

でも未来を見ながら点をつなぐことはできません。振り返ったときに点がつながっていたと気づくものです。

そのために高校生である今、「点」をどんどん増やしてほしい。その「点」が積み重なり、やがて一本の線となり、大きな成果につながります。

最後に三年生。

社会の扉を開くときはすぐそこまで来ています。

自分で選び、自分で近づき、自分の手で開くのです。自動ドアではありません。

ただし、その扉に向かう過程では仲間と励まし合える。これが学校生活の素晴らしさです。

一・二年生は、先輩の姿をしっかり見て、自分の「扉」を探してください。

最後にもう一度、三つの言葉を胸に刻んでください。

「勝負どころで力を出すこと」「必要なときに我慢すること」「点と点を結ぶこと」。

この二学期も、みなさんの“いい顔”がたくさん見られることを楽しみにしています。